

筒井義郎教授略歴・著作目録

雑誌名	甲南経済学論集
巻	60
号	3・4
ページ	iii-vx
発行年	2020-03-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1260/00003481/

筒井義郎教授 略歴・著作目録

筒井義郎教授略歴

1950年3月8日生まれ

学 歴

- 1968年3月 大阪教育大学付属高等学校卒業
1968年4月 東京教育大学理学部物理学科入学
1974年3月 東京教育大学理学部物理学科卒業
1975年4月 大阪市立大学経済学部Ⅱ部学士入学
1979年3月 大阪市立大学経済学部Ⅱ部卒業
1979年4月 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程入学
1981年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了（経済学修士）
1981年4月 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程入学
1982年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程退学
1989年9月 経済学博士号（大阪大学）取得

職 歴

- 1974年4月 神奈川県立高等学校教諭（理科）
1975年4月 大阪府立高等学校教諭（理科）
1980年3月 同上退職
1982年4月 大阪大学経済学部助手
1983年4月 名古屋市立大学経済学部助手
1984年4月 名古屋市立大学経済学部講師
1986年9月より1988年8月まで

Yale 大学客員研究員 (Fulbright Junior Researcher)

1987年 7 月 名古屋市立大学経済学部助教授

1990年11月より1992年11月まで

郵政省郵政研究所特別研究官

1991年 4 月 大阪大学経済学部助教授

1993年 4 月 大阪大学経済学部教授

1998年 4 月 大阪大学大学院経済学研究科教授

2000年 3 月より2001年 3 月まで

University of California, San Diego 客員研究員 (Abe Fellowship)

2004年 4 月より2008年 3 月まで

大阪大学社会経済研究所附属行動経済学研究センター長

2004年 8 月 大阪大学社会経済研究所教授

2004年11月より2006年 3 月まで

経済産業研究所ファカルティ・フェロー

2008年 4 月 大阪大学大学院経済学研究科教授

2009年 4 月より2012年 3 月まで

財務省財務総合政策研究所特別研究官

2010年 4 月より2011年 3 月まで

University of Amsterdam 客員研究員 (特定国派遣研究員)

2014年 4 月 大阪大学名誉教授

2014年 4 月 甲南大学経済学部特任教授

賞 罰

1988年11月 第31回『日経・経済図書文化賞』受賞

2001年 1 月 第 7 回『全国銀行学術研究振興財団賞』受賞

2007年 5月 郵政公社総裁賞

学会活動

所属学会

日本経済学会，行動経済学会，日本金融学会，日本ファイナンス学会，生活
経済学会

理事・委員など

- [1] 行動経済学会理事，2017年12月～現在
- [2] 日本経済学会，監事，2014年 6月15日～2018年 6月 9日
- [3] 日本学術会議，連携会員，2011年10月 3日～現在
- [4] 行動経済学会常任理事，2011年12月～2017年12月
- [5] 『行動経済学』編集委員長，2011年12月～2016年11月
- [6] 国際ソシオネットワーク戦略学会理事，2010年 4月～現在
- [7] 日本金融学会会長 2008年 5月17日～2010年 5月16日
- [8] 行動経済学会会長 2007年12月16日～2009年12月16日
- [9] 『信金中金月報掲載論文』編集委員，2003年11月～2008年 5月。
- [10] 『金融経済研究』編集委員長，2001年 5月～2005年 5月
- [11] Editorial Board, International Quarterly Journal of Finance, 2001年 4
月～2002年 3月
- [12] 『現代ファイナンス』編集委員，1996年 8月～現在
- [13] 『金融経済研究』編集委員，1996年 5月～1999年10月。
- [14] 日本ファイナンス学会理事，1995年 2月～1996年 4月。2008年 6月～
2011年 5月
- [15] 日本金融学会理事，1994年 4月～1998年 5月，2000年 5月～2010年 5
月。

[16] Associate editor, *Economic Studies Quarterly*, 1994年4月～1995年3月。

レフェリー

American Economic Review, Asian Economic Journal, China Economic Review, Economic Studies Quarterly, Economics of Disasters and Climate Change, Emerging Markets Finance and Trade, Empirical Economics, Financial Engineering and the Japanese Markets, Health Policy, International Economics and Finance Journal, International Journal of Disaster Risk Reduction, International Journal of Finance & Economics, International Journal of Industrial Organization, International Review of Economics and Finance, Japan and the World Economy, Japanese Economic Review, Journal of Applied Economics, Journal of Behavioral and Experimental Economics, Journal of Business Economics and Management, Journal of Economic Psychology, Journal of Happiness Studies, Journal of Industrial Economics, Journal of International Money and Finance, Journal of the Japanese and International Economies, Journal of Money, Credit, and Banking, Journal of Public Health, Manchester School, Plos One, Review of Socionetwork Strategies, Wether, Climate, and Society, 『経済研究』, 『金融経済研究』, 『ファイナンス研究』, 『現代ファイナンス』, 『生活経済研究』, 『経済分析』, 『日本労働研究雑誌』, 『日本経済研究』

社会活動

- [1] 大阪府信用組合経営問題懇談会, 会長
- [2] 大阪府信用組合経営ビジョン策定委員会, 会長
- [3] 金融政策研究会, 委員, 大蔵省
- [4] 郵貯・簡保資金運用研究会, 委員, 郵政省

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- [5] 株価算定委員会, 委員 (委員長代理), 総理府
- [6] 学術審議会, 専門委員, 文部省
- [7] 金融業の競争に関する研究会, 会員, 公正取引委員会
- [8] アナリスト協会試験委員 ~現在
- [9] 名古屋大学経済学研究科外部評価委員会, 2009年3月~5月
- [10] 早稲田大学高等研究所業績評価委員, 2007年1月~2010年
- [11] 個人型年金規約策定委員, 国民年金基金連合会, 2010年~2019年10月
- [12] 個人型年金規約策定委員会委員長, 国民年金基金連合会, 2014年2月~2019年10月
- [13] 小規模金融にかかわる政策検討会議委員, 大阪府, 2011年9月~12月

助成金 (2001年度以降のみ)

【科学研究費補助金】

- [1] 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)), 2018~2022年度, 課題番号 18KK0048 「巨大リスクにどのように立ち向かうか? イスラエルとの共同研究」研究代表者, 17,940千円
- [2] 基盤研究 (C), 2018~2021年度, 課題番号 18K01673 「主観的幸福感を用いた所得再配分政策の評価」研究代表者, 4,290千円
- [3] 基盤研究 (B), 2016~2019年度, 課題番号 16H03628 「家族と社会関係資本の相互作用が非認知的能力に与える影響: パネルデータの構築と利用」研究分担者 (研究代表者: 山村英司) 16,640千円
- [4] 基盤研究 (B), 2016~2020年度, 課題番号 16H03640 「国際比較可能データによる金融資本市場と経済政策に関する分析」研究分担者 (研究代表者: 亀坂安紀子) 16,250千円
- [5] 基盤研究 (C), 2013~2015年度, 課題番号25460620 「行動経済学を応用したヘルスプロモーション理論の開発と服薬行動における検証の研

- 究」研究分担者（研究代表者：大阪大学 田倉智之），4,000千円
- [6] 基盤研究 (B)，2012～2016年度，課題番号24330103「日本の企業ファイナンスに関する実態分析：企業の環境変化と金融機関のあり方」研究分担者（研究代表者：神戸大学 内田浩史）13,300千円
- [7] 基盤研究 (A)，2011～2015年度，課題番号23243052「幸福の経済学と政策評価：パラドックスの解明を目指して」，研究代表者，37,200千円
- [8] 基盤研究 (B)，2011～2015年度，課題番号「ネット取引における投資家行動と株価変動」，研究分担者（研究代表者：名古屋大学 加藤英明），4,800千円
- [9] 基盤研究 (B)，2009～2012年度，課題番号21330076「日本の企業ファイナンスに関する実態分析：リレーションシップ型金融の意義と限界」研究分担者（研究代表者：神戸大学 内田浩史），13,500千円
- [10] 基盤研究 (B)，2008～2011年度，課題番号20330067「時間整合的行動とセルフコントロールの有効性」研究分担者（研究代表者：早稲田大学 晝間文彦），2,400千円
- [11] 基盤研究 (B)，2008～2011年度，課題番号20330065「ネット取引における投資家行動と株価変動」，研究分担者（研究代表者：名古屋大学 加藤英明），4,800千円
- [12] 萌芽研究，2008～2009年度，課題番号20653017「ニューロエコノミクスの研究拠点形成に向けて：金融理論の基盤再考」，研究代表者，1,600千円
- [13] 萌芽研究，2006～2007年度，課題番号18653027「時間割引率と危険回避度：ニューロエコノミクスによるアプローチ」，研究代表者，3,300千円
- [14] 基盤研究 (A)，2005～2008年度，課題番号17203025「アンケート調査

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- と経済実験による資産選択と貯蓄・消費行動の分析」, 研究代表者,
37,100千円
- [15] 21世紀 COE プログラム, 2003～2007年度, アンケート調査と実験による行動マクロ動学」, 研究拠点リーダー, 580,960千円 (中間評価 A, 最終評価 A)
- [16] 基盤研究 (A), 2001～2004年度, 課題番号13303007 「アンケート調査に基づく効用関数の形状の推定」, 研究代表者, 39,000千円

【その他の研究費】

- [1] 日本経済研究奨励財団, 2006年度, 「銀行部門は地域経済の発展に寄与したか-金融深化と convergence による分析」, 研究代表者, 400千円
- [2] 全国銀行振興財団, 2007年度, 「1990年代の日本に貸し渋りは本当に起きたか」, 研究代表者, 1,000千円

筒井義郎教授著作目録

I 著書

- [1] 『行動経済学入門』東洋経済新報社，2017年5月（佐々木俊一郎，山根承子，グレッグ・マルデワ氏と共著）
- [2] 『図解雑学－行動経済学』ナツメ社，2011年12月。（山根承子氏と共著）
- [3] 『日本の株価－投資家行動と国際連関－』東洋経済新報社，2009年3月。（平山健二郎氏と共著）
- [4] 『金融業における競争と効率性－歴史的視点から－』東洋経済新報社，2005年6月。
- [5] 『金融』プログレッシブシリーズ，東洋経済新報社，2001年11月。
- [6] 『金融市場と銀行業－産業組織の経済分析－』東洋経済新報社，1988年6月。

II 編著書

- [1] Behavioral Economics of Preferences, Choices, and Happiness, Springer Verlark, January 2016. (coedited with Shinsuke Ikeda, Fumio Ohtake, and Hideaki Kato)
- [2] Behavioral Interactions, Markets, and Economic Dynamics, Springer Verlark, Septembreeer 2015. (coedited with Shinsuke Ikeda, Fumio Ohtake, and Hideaki Kato)
- [3] 『日本の幸福度－格差・労働・家族』，日本評論社，2010年7月。（大竹文雄氏，白石小百合氏と共編著）
- [4] 『リレーションシップバンキングと地域金融』日本経済新聞社，2007

年 5 月。(植村修一氏と共編)

- [5] 『金融分析の最先端』東洋経済新報社，2000年 7 月。
- [6] 『日本の資本市場』日本評論社，1996年 9 月。(橋木俊詔氏と共編)

Ⅲ 訳書

- [1] 『日本金融システムの危機と変貌』日本経済新聞社，2001年 5 月。(T. Hoshi and H. Patrick eds. *Crisis and Change in the Japanese Financial System* の監訳)
- [2] 『1990年代の金融規制』有斐閣，1992年 2 月。(D. Gowland, *The Regulation of Financial Markets in the 1990s* を，平山健二郎氏，福田充男氏，井澤裕司氏，森 伸宏氏と共訳)。
- [3] 『病める経済アメリカー草の根の経済白書』多賀出版，1991年 3 月。(Center for Popular Economics, *Economic Report of the People* を，宮川重義氏と共訳)

Ⅳ 公刊論文 (*は refereed journal)

- [1] * “Spousal age gap and identity and their impact on the allocation of housework” forthcoming in *Empirical Economics*, October, 2019. (Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui)
- [2] 「結婚と幸福：サーベイ」依田高典・岡田 克彦編著『行動経済学の現在と未来』第 7 章，日本評論社，2019年 9 月。
- [3] * “Male pupils taught by female homeroom teachers show a higher preference for Corporate Social Responsibility in adulthood,” *Journal of the Japanese and International Economies* 54, available online 07 September 2019. <https://doi.org/10.1016/j.jjie.2019.101048>
- [4] * “Is irrational thinking associated with lower earnings and happiness?”

- Mind & Society, 18 (1), 87-104, 2019. (Yamane, S., Yoneda, H. & Tsutsui, Y.). <https://doi.org/10.1007/s11299-019-00213-4>
- [5] * “Happiness before and after an election: An analysis based on a daily survey around Japan’s 2009 election,” Japan and the World Economy, 49, 187-194, 2019. (Yusuke Kinari, Fumio Ohtake, Miles Kimball, Shoko Morimoto and Yoshiro Tsutsui)
- [6] * 「結婚と幸福：サーベイ」『行動経済学』第12巻, 1-14, 2019。
- [7] * “Trade policy preference, childhood sporting experience, and informal school curriculum: an examination of views of the TPP from the viewpoint of behavioral economics,” Review of International Economics, 27, 61-90, 2019. (Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui) DOI: 10.1111/roie.12356
- [8] * “Effects of pregnancy and birth on smoking and drinking behaviors: a comparative study between men and women,” Japanese Economic Review, 70(2), 210-234, June 2018. (Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui) <https://doi.org/10.1111/jere.12184>
- [9] * 「prospect theory による漁業者の意思決定の解釈」『日本水産学会誌』84 (4), 720-727, 2018年7月。(大西修平, 山川 卓, 赤嶺達郎, 筒井義郎, 山根承子) doi: 10.2331/suisan.17-00075
- [10] * “Do international investors cause stock market spillovers? Comparing responses of cross-listed stocks between accessible and inaccessible markets,” Economic Modelling, 69, 237-248, January 2018. (Yusaku Nishimura, Yoshiro Tsutsui, Kenjiro Hirayama) <https://doi.org/10.1016/j.econmod.2017.09.023>
- [11] * “Extraversion and life satisfaction: A cross-cultural examination of student and nationally representative samples,” Journal of Personality, 86 (4). First published: August, 2017 1-15. DOI: [https://doi.org/ 10.1111/](https://doi.org/10.1111/)

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- jopy.12339 (Hyunji Kim, Ulrich Schimmack, Shigehiro Oishi, Yoshiro Tsutsui)
- [12] * “Why are cabinet supporters happy?” *Journal of Behavioral Economics and Finance*, 10, 1-6, April 2017. (Yoshiro Tsutsui, Shoko Yamane and Fumio Ohtake)
- [13] * “Comparing the role of height between men and women in the marriage market,” *Economics and Human Biology*, 26, 42-50, August 2017. (Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui) <https://doi.org/10.1016/j.ehb.2017.02.006>.
- [14] * 「日本人はどんな県に住みたいのか？：人々の居住権選択と地域の特性」『生活経済学研究』第45巻，65-79，2017年3月。(山根智沙子，山根承子，筒井義郎)
- [15] * “Understanding regional growth dynamics in Japan: Panel cointegration approach utilizing the PANIC method,” *Journal of the International and Japanese Economies*, 40, 17-30, June 2016. (Masahiko Shibamoto, Yoshiro Tsutsui and Chisako Yamane)
- [16] * 「信用金庫の従業員主権的なガバナンス構造は効率性にどのように影響するか？」『金融経済研究』第39号，1-14，2017年3月。(茶野努，筒井義郎)
- [17] * “Relative income position and happiness: are cabinet supporters different from others in Japan?” *Japanese Economic Review*, 67 (4), 383-402, December 2016. (Eiji Yamamura, Yoshiro Tsutsui, and Fumio Ohtake)
DOI: 10.1111/jere.12090
- [18] * “Chinese stock market does not react to Japanese market: An analysis of return and volatility spillovers with intraday data,” *Japanese Economic Review*, 67 (3), 280-294, September 2016. (Yusaku Nishimura, Yoshiro

- Tsutsui, and Kenjiro Hirayama) DOI: 10.1111/jere.12086.
- [19] * “Disposition effect and diminishing sensitivity: An analysis based on a simulated experimental stock market,” *Journal of Behavioral Finance*, 18 (2), 189-201, May 2017. (Youki Kohsaka, Grzegorz Mardyla, Shinji Takenaka, and Yoshiro Tsutsui)
- [20] 「企業の環境変化と金融機関のあり方：日本の企業ファイナンスに関する実態調査」『経営研究』No. 61, 1-64, 2015 (内田浩史, 小倉義明, 筒井義郎, 根本忠宣, 家森信善, 神吉正三, 渡部和孝)。
- [21] * “Intraday return and volatility spillover mechanism from Chinese to Japanese stock market,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 35, 23-42, March 2015. (Yusaku Nishimura, Yoshiro Tsutsui and Kenjiro Hirayama)
- [22] * “Cultural variations in global versus local processing: A developmental perspective,” *Developmental Psychology*, vol. 50 (12), 2654-2665, December 2014. (Shigehiro Oishi, Vikram K. Jaswal, Angeline S. Lillard, Ai Mizokawa, Hidefumi Hitokoto, Yoshiro Tsutsui) doi: <http://dx.doi.org/10.1037/a0038272>
- [23] * “Trust and happiness: Comparative study before and after the Great East Japan Earthquake,” *Social Indicators Research*, vol. 123 (3), 919-935, September 2015. (Eiji Yamamura, Yoshiro Tsutsui, Chisako Yamane and Shoko Yamane, and Nattavudh Powdthavee) Doi: 10.1007/s11205-014-0767-7
- [24] 「地域金融機関の経営実態」『経営研究』No. 57, 2014 (内田浩史, 小倉義明, 筒井義郎, 根本忠宣, 家森信善, 神吉正三, 渡部和孝)。
- [25] * “Are maximizers unhappier than satisficers? A comparison between Japan and the USA,” *Journal of Research in Personality*, 40, 14-20, 2014.

筒井義郎教授 略歴・著作目録

(Shigehiro Oishi, Yoshiro Tsutsui, Casey Eggleston, Iolanda Galinha)

- [26] * “Note on the Interpretation of Convergence Speed in the Dynamic Panel Model,” *Applied Economics Letters*, vol. 21 no. 8, 533-535, 2014. (Masahiko Shibamoto and Yoshiro Tsutsui)
- [27] * “Firm Growth and Efficiency in the Banking Industry: A new test of the efficient structure hypothesis,” *Journal of Banking and Finance*, vol. 40, 143-153, 2014. (Homma Tetsushi, Tsutsui Yoshiro, and Uchida Hirofumi).
- [28] 「どのような人が結婚・出産を決意するのか? : アンケート調査の結果」『大阪大学経済学』第63巻, 第3号, 1-38頁。2013年12月。(筒井義郎, 亀坂安紀子, Oleksandr Movshuk, 白石小百合)
- [29] * “Credit Crunch and its Spatial Differences in Japan’s Lost Decade: What Can We Learn from It?” *Japan and the World Economy* Vol. 28, pp. 41-52 December 2013. (Daisuke Ishikawa, and Yoshiro Tsutsui)
- [30] * “International Stock Price Co-movement.” *Asian Economic Papers* Vol. 12, No. 3, pp. 157-191, October 2013 (Hirayama, Kenjiro and Yoshiro Tsutsui)
- [31] “Are Chinese Stock Investors Watching Tokyo? An Analysis of Intraday High-Frequency Data from Two Chinese Stock Markets and Tokyo Stock Market.” *Japanese Journal of Monetary and Financial Economics* Vol. 1, No.1, pp.37-57, August 2013. (Yoshiro Tsutsui and Kenjiro Hiramaya).
- [32] * “Smokers, Smoking Deprivation and Time Discounting,” *Journal of Socio-Economics*, vol 45, pp. 47-56, August 2013, (Shoko Yamane, Hiroyasu Yoneda, Taiki Takahashi, Yoshio Kamijo, Yasuhiro Komori, Fumihiko Hiruma, and Yoshiro Tsutsui) DOI: 10.1016/j.socec.2013.04.005

- [33] * “Socio-Emotional Status, Education, and Time-Discounting in Japanese Non-Smoking Population: A Multi-Generational Study,” *Psychology*, vol. 4, pp. 124-132, February 2013. (Shoko Yamane, Taiki Takahashi, Akiko Kamesaka, Yoshiro Tsutsui and Fumio Ohtake)
- [34] * “Weather and Individual Happiness,” *Weather Climate and Society*, vol. 5 no. 1, pp. 70-82, January 2013.
- [35] 「金融危機，バブルと行動ファイナンス」櫻川昌哉・福田慎一編『なぜ金融危機は起こるのか』第5章，2013年1月，東洋経済新報社，119-140。
- [36] * “Economic and Behavioral Factors in an Individual’s Decision to Take the Influenza Vaccination in Japan,” *Journal of Socio-Economics*, vol. 41 no. 5, pp. 594-602, October 2012. (Yoshiro Tsutsui, Uri Benzion and Shosh Shahrabani)
- [37] * “Time Discounting: Delay Effect and Procrastinating Behavior,” *Journal of Behavioral Economics and Finance*. vol. 5, pp. 15-25, May 2012. (Shunichiro Sasaki, Shiyu Xie, Shinsuke Ikeda, Jie Qin and Yoshiro Tsutsui)
- [38] * 「経済実験による危険回避度の特徴の解明」『行動経済学』第5巻，pp. 26-44，2012年4月。(大竹文雄・筒井義郎)
- [39] * “Asking about Changes in Happiness in a Daily Web Survey and its Implication for the Easterlin Paradox,” *Japanese Economic Review*, vol. 63 no. 1, pp 38-56, March 2012. (Yoshiro Tsutsui and Fumio Ohtake)
- [40] 「金融危機と日中ボラティリティ：日米中株式市場の比較分析」『大阪大学経済学』第61巻 第2号，pp. 19-36，2011年12月。(西村友作・筒井義郎・平山健二郎)
- [41] * “A Policy to Promote Influenza Vaccination: A Behavioral Economic

- Approach,” *Health Policy*, vol. 97 no. 2-3, pp. 238-249, October 2010.
(Yoshiro Tsutsui, Uri Benzion, Shosh Shahrabani, and Gregory Yom Din)
- [42] * “Competition in the Japanese Life Insurance Industry,” *Review of Monetary and Financial Studies*, No. 31, pp. 1-19, October 2010.
(Toshiyuki Souma and Yoshiro Tsutsui)
- [43] * “How Fast Do Tokyo and New York Stock Exchanges Respond to Each Other? An Analysis with High-Frequency Data,” *Japanese Economic Review*, vol. 61 no. 2, pp. 175-201, June 2010. (Kenjiro Hirayama and Yoshiro Tsutsui)
- [44] * “Koizumi Carried the Day: Did the Japanese Election Results Make People Happy and Unhappy?” *European Journal of Political Economy*, vol. 26 no. 1, pp. 12-24, March 2010. (Miles Yoshiro Tsutsui, Kimball, and Fumio Ohtake)
- [45] * 「日本における危険資産保有比率の決定要因」『金融経済研究』第29号, pp. 46-64, 2009年10月。(木成勇介・筒井義郎)
- [46] * 「幸福の経済学は福音をもたらすか？」(行動経済学会会長講演)『行動経済学』第2巻1号, 2009年8月。
- [47] * “Time Discounting: Declining Impatience and Interval Effect,” *Journal of Risk and Uncertainty*, vol. 39, pp. 87-112, June 2009. (Yusuke Kinari, Fumio Ohtake and Yoshiro Tsutsui)
- [48] * 「地域金融研究の課題」(日本金融学会会長講演)『金融経済研究』第28号, pp. 1-22, 2009年4月。
- [49] * 「銀行部門と地域の経済発展：金融深化と収束仮説」『金融経済研究』第28号, pp. 68-90, 2009年4月。(山根智沙子・筒井義郎)
- [50] * 「消費者金融業の競争度」『現代ファイナンス』No. 25, pp. 23-51,

2009年3月。(窪田康平・筒井義郎)

- [51] 「なぜあなたは不幸なのか」『大阪大学経済学』第58巻 第4号, pp. 20-57, 2009年3月。(筒井義郎・大竹文雄・池田新介)
- [52] *「幸福度で測った地域間格差」『行動経済学』第1巻 第1号, 2008年12月。(山根智沙子・山根承子・筒井義郎)
- [53] *“Experiments on Risk Attitude: the Case of Chinese Students,” *China Economic Review* vol.19 no. 2, pp. 245-259, June 2008. (Shunichiro Sasaki, Shiyu Xie, Fumio Ohtake, Jie Qin, and Yoshiro Tsutsui)
- [54] *“Special Quotes Invoke Autocorrelation in Japanese Stock Prices” *Asian Economic Journal*, vol. 21 no. 4, 369-389, December 2007. (Yoshiro Tsutsui, Kenjiro Hirayama, Takahiro Tanaka, and Nobutaka Uesugi)
- [55] *「两次风险态度实验研究及其比较分析 (On the Experiments on Risk Attitude and Comparative Analysis)」『金融研究 (Journal of Financial Research)』pp. 57-6, 2007年11月。(谢识予 (Shiyu Xie), 孙碧波 (Bibo Sun), 朱弘鑫 (Hongxin Zhu), 筒井義郎 (Yoshiro Tsutsui), 秦 劼 (Jie Qin), 万军民 (Junmin Wan))
- [56] *「上限金利規制の是非：行動経済学的アプローチ」『現代ファイナンス』No. 22, pp. 25-73, 2007年9月。(筒井義郎・晝間文彦・大竹文雄・池田新介)
- [57] 「地域分断と非効率性」筒井義郎・植村修一編『リレーションシップバンキングと地域金融』日本経済新聞出版社, 第5章127-160頁, 2007年5月。
- [58] 「アンケート調査と経済実験による危険回避度と時間割引率の解明」『証券アナリストジャーナル』第44巻 第2号, pp. 70-81, 2006年2月。(池田新介・筒井義郎)
- [59] 「人間は危険回避のか？—経済実験とアンケート調査による検証—」

『大阪大学経済学』, 第55巻 第2号, pp. 43--69, 2005年9月。(晝間文彦・筒井義郎)

- [60] * “Estimation of the Common and Country-Specific Shock to Stock Prices,” *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.19, 322-337, September 2005. (Yoshiro Tsutsui and Kenjiro Hirayama)
- [61] * “Degree of Competition in Japanese Securities Industry,” *Journal of Economics and Business*, vol. 57 no. 4, pp. 360-374, June 2005. (Yoshiro Tsutsui and Akiko Kamesaka)
- [62] “Japanese Life Insurance Industry in the Interwar Period,” *Osaka Economic Papers*, vol. 54 no.1, pp.1-24, June 2004. (Yoshiro Tsutsui Masahiko Sekiguchi and Tsutomu Chano)
- [63] * “Exchange rate and the stock prices in Japan,” *Applied Financial Economics*, vol. 15 no. 7, pp. 469-478, April 2005. (Tetsushi Homma, Yoshiro Tsutsui and Uri Benzion)
- [64] * “Has Competition in the Japanese Banking Sector Improved?” *Journal of Banking and Finance*, vol. 29 no. 2, pp. 419-439, February 2005. (Hirofumi Uchida and Yoshiro Tsutsui)
- [65] * “Appropriate Lag Specification for Daily Responses of International Stock Markets,” *Applied Financial Economics*, vol. 14, pp. 1017-1025, October 2004. (Yoshiro Tsutsui and Kenjiro Hirayama)
- [66] * “Are the International Portfolio Adjustments a Cause of the Comovements of Stock Prices?” *Pacific Basin Finance Journal*, vol. 12, pp. 463-478, September 2004. (Yoshiro Tsutsui and Kenjiro Hirayama)
- [67] 「信用金庫の経営効率性」『信金中金月報』第3巻 第9号, pp. 2-22, 2004年8月。
- [68] * “Stock Prices in Japan Rise at Night,” *Japan and the World Economy*,

- vol. 15 no. 4, pp. 391-406, December 2003.
- [69] “Causes of Nonperforming Loans in the ‘Heisei Depression’,” *Osaka Economic Papers*, vol. 53 no. 2, pp. 222-246, September 2003. (Akira Kunikata and Yoshiro Tsutsui)
- [70] “Adjusted Interest Rates and Segmentation Hypothesis of Japanese Bank Loan Markets,” *Osaka Economic Papers*, vol. 53 no. 1, pp. 1-15, June 2003. (Masaji Kano and Yoshiro Tsutsui)
- [71] * “Geographical Segmentation in Japanese Bank Loan Markets,” *Regional Science and Urban Economics*, vol. 33 no. 2, pp. 157-174, March 2003. (Masaji Kano and Yoshiro Tsutsui)
- [72] 「なぜ京都は信金王国なのか？：efficiency structure 仮説の視点による分析」湯野勉編著『京都の地域金融』第4章, pp.71-108, 日本評論社, 2003年3月。(佐竹光彦・筒井義郎)
- [73] * “The Interdependence and Its Cause of the Japanese and U.S. Stock Prices: An Event Study,” *Asian Economic Journal*, vol. 16 no. 2, pp. 97-109, June 2002.
- [74] * “The Premium-Dividend Competition in the Pre-War Japanese Life Insurance Industry: A Game Theoretic Interpretation,” *Japanese Economic Review*, vol. 51 no. 4, pp. 519-535, December 2000. (Yoshiro Tsutsui, Masahiko Sekiguchi and Tsutomu Chano)
- [75] 「銀行業の産業組織」筒井義郎編『金融分析の最先端』第3章, pp. 69-101, 東洋経済新報社, 2000年7月。
- [76] 「日本の公的金融仲介：展望」『大阪大学経済学』第49巻 第3・4号 (真田英彦博士還暦記念論文集), pp. 103-129, 2000年3月。
- [77] 「アメリカの株価はバブルか：アンケート調査に基づく分析」『証券アナリストジャーナル』2000年2月号, pp. 6-24。

- [78] 「銀行の経営合理化」本多佑三・小佐野 広編『現代の金融と政策』第 8 章, pp. 196-226, 日本評論社, 2000年 1 月。(筒井義郎・竹内哲治・粕谷宗久)
- [79] * “Do Banks Diversify Portfolio Risk?: A Test of the Risk Cost Hypothesis,” Japan and the World Economy, vol. 11, pp. 29-39, January 1999. (Shin’ichi Hirota and Yoshiro Tsutsui)
- [80] * “Threshold Effect in International Linkage of Stock Prices,” Japan and the World Economy, vol. 10, pp. 441-453, December 1998. (Kenjiro Hirayama and Yoshiro Tsutsui)
- [81] “Intensifying International Linkage of Stock Prices: Cointegration and VEC Analysis,” Osaka Economic Papers, vol. 48 no. 1, pp. 1-17, July 1998. (Kenjiro Hirayama and Yoshiro Tsutsui)
- [82] * “Managerial Objectives in Japanese Banking,” Applied Financial Economics, vol. 8, pp. 89-99, February 1998. (Hiroshi Izawa and Yoshiro Tsutsui)
- [83] 「消費の外部性と資産価格」橋木俊詔・筒井義郎編『日本の資本市場』第 2 章, pp. 29-42, 日本評論社, 1996年 9 月。(池田新介・筒井義郎)
- [84] 「日米株価の相互連関」橋木俊詔・筒井義郎編『日本の資本市場』第 4 章, pp. 55-79, 日本評論社, 1996年 9 月。
- [85] * “Why Did the Nikkei Crash? Expanding the Scope of Expectation Data Collection” Review of Economics and Statistics, vol. 78 no. 1, pp. 156-164, February 1996. (Robert J. Shiller, Fumiko Kon-Ya and Yoshiro Tsutsui)
- [86] 「低金利政策と銀行業の効率性」『郵政研究レビュー』第 6 号, pp. 91-131, 1995年 3 月。(筒井義郎・上岡孝一・洞口紳也・堀内 聡)
- [87] 「貸出サイズと銀行の規模の経済性」橋木俊詔・松浦克己編『日本の

- 金融：市場と組織』, 第7章, pp. 181-216, 日本評論社, 1994年10月。
- [88] 「金融システム—日本の特徴とは何か」小泉 進・本間正明編著『日本型市場システムの解明』第3章, pp. 27-44, 有斐閣, 1993年4月。
- [89] * “The Industrial Organization of Financial Markets in Thailand,” *Asian Economic Journal*, vol. 7 no. 1, pp. 71-88, March 1993. (Nobuhiro Mori and Yoshiro Tsutsui)
- [90] 「日本の銀行業におけるデッドウェイトロスの計測」『郵政研究レビュー』第3号, pp. 1-42, 1993年3月。(筒井義郎・松浦秀樹)
- [91] * 「生命保険業の規模と範囲の経済性」『ファイナンス研究』第15号, pp. 1-15, 1992年9月。(筒井義郎・関口昌彦・茶野 努)
- [92] 「銀行業における範囲の経済性」堀内昭義・吉野直行編『現代日本の金融分析』第46章, pp. 141-163, 東大出版会, 1992年6月。(廣田真一・筒井義郎)
- [93] “Comments on Oritani’s and Cargill’s Papers,” in Y. Oishi and Komada eds. *Networks and Society: The Proceedings of the 1st IPTP Conference*, pp. 197-204, Tokyo: Tokyo UP, May 1992.
- [94] 「金融規制」貝塚啓明・池尾和人編『金融理論と制度改革』(シリーズ現代金融 第2巻) 所収, pp. 173-207, 有斐閣, 1992年5月。
- [95] * 「長期資金市場と短期貸出市場：寺西モデルの再検討」『金融経済研究』第2号, pp. 43-57, 1992年1月。(張 麗麗・筒井義郎)
- [96] * “The Effect of Branch Regulation in Japanese Banking,” 『経済研究』第42巻 第3号, pp. 211-225, 1991年7月。
- [97] * “Investor Behavior in the October 1987 Stock Market Crash: The Case of Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*, vol. 5 no. 1, pp. 1-13, March 1991. (Robert J. Shiller, Fumiko Kon-ya and Yoshiro Tsutsui)

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- [98] *「生命保険業の市場構造と成果」『ファイナンス研究』第12号, pp. 21-40, 1990年7月。(橋木俊詔・中馬宏之編著『生命保険の経済分析—その役割と市場評価』, 日本評論社, 1993年に再録)
- [99] “Co-operative Behavior under Regulations: Characteristics of the Banking Industry,” Japanese Economic Studies, vol.18 no. 3, pp. 53-92, Spring 1990. (拙著『金融市場と銀行業』第4章の翻訳)
- [100] 「わが国銀行業における経営者の目的: Expense-preference 仮説は妥当するか?」『金融学会報告』第69号, 1990年2月。(井澤裕司・筒井義郎)
- [101] * “Bank Market Structure and Performance: Evidence from Japan,” Economic Studies Quarterly, vol. 40 no. 4, pp. 296-316, December 1989. (Nobuhiro Mori and Yoshiro Tsutsui)
- [102] 「望ましい金融制度改革とは」『ESP』1989年3月号, pp. 48-53。
- [103] 「わが国銀行業における規模の経済性とその源泉」『金融学会報告』第64号, pp. 61-67, 1987年7月。(野間敏克・筒井義郎)
- [104] * 「わが国銀行業における規模の経済性とその源泉」『経済研究』第38巻 第3号, pp. 251-262, 1987年7月。(野間敏克・筒井義郎)
- [105] 「わが国銀行業における規模の経済性: トランスログ費用関数および資本レンタル価格の検討」『大阪大学経済学』第36巻 第3・4合併号, pp. 218-229, 1987年3月。(野間敏克・筒井義郎)
- [106] 「金融業の産業組織」館龍一郎・蠟山昌一編『日本の金融』第1巻 所収, pp. 177-220, 東京大学出版会, 1987年1月。(筒井義郎・蠟山昌一)
- [107] * “Credit Rationing and Implicit Contract Theory: An Empirical Study,” International Journal of Industrial Organization, vol. 4 no. 4, pp. 419-438, December 1986. (Hiroshi Osano and Yoshiro Tsutsui)

- [108] 「貨幣需要関数：展望」『オイコノミカ』第23巻 第1号, pp. 1-34, 1986年6月。
- [109] 「金融機関の規模の経済性と技術的効率性」『オイコノミカ』第22巻 第3・4合併号, pp. 43-66, 1986年3月。
- [110] 「新規貸出金利の調整機能」『金融学会報告』第61号, pp. 3-12, 1985年12月。
- [111] * “Implicit Contracts in the Japanese Bank Loan Market,” *Journal of Financial and Quantitative Analysis*, vol. 20 no. 2, pp. 211-230, June 1985. (Hiroshi Osano and Yoshiro Tsutsui)
- [112] 「新規貸出金利：再計測」『オイコノミカ』第21巻 第2・3・4合併号, pp. 297-343, 1985年3月。
- [113] * “Credit Rationing and Competitive Loan Markets: A Comment on Jaffee-Russell Model,” *Economic Studies Quarterly*, vol. 35 no. 3, pp. 269-276, December 1984.
- [114] * 「日銀貸出の決定メカニズム」『経済研究』第34巻 第2号, pp. 139-147, 1983年4月。(井澤裕司・筒井義郎)
- [115] 「債券市場」古川顕編『日本の金融市場と政策』所収, pp. 61-101, 昭和堂, 1983年3月。
- [116] 「貸出市場」古川顕編『日本の金融市場と政策』所収, pp. 3-35, 昭和堂, 1983年3月。
- [117] 「新規貸出金利の推定」『大阪大学経済学』第32巻 第2・3合併号, pp. 272-291, 1982年12月。
- [118] 「日米両国における貨幣需要関数の安定性について」『季刊現代経済』第50号, pp. 124-135, 1982年9月。(筒井義郎・畠中道雄)
- [119] * 「わが国銀行貸出市場の不均衡分析」『季刊理論経済学』第33巻 第1号, pp. 38-54, 1982年4月。 <https://doi.org/10.11398/economics1950>.

33.1_38

- [120] 「わが国の銀行貸出市場は均衡しているか？－展望－」『証券経済』第136号, pp. 81-106, 1981年6月。

V その他の著作

- [1] 「アダム・オルター著『僕らはそれに抵抗できない』」2019年 陸奥新報（8月24日）、北日本新聞（8月24日）、苫小牧民報（8月27日）、北羽新報（8月26日）、デーリー東北（9月8日）、河北新報（9月1日）、十勝毎日新聞（9月14日）、上毛新聞（9月15日）
- [2] 「ミシェル・バデリー著『行動経済学』」2018年 10月27日 陸奥新報, 10月28日 北日本新聞, ほか。
- [3] 「(行動経済学は) どこに行くのか: 次の段階は主流派との融合; 経済学を内側から変える」週刊エコノミスト, 2017年12月12日号。
- [4] 「セイラーの行動経済学, 異端の学問が大活躍」東洋経済オンライン, 2017年10月16日。
- [5] 「マイケル・ルイス著『かくて行動経済学は生まれり』」, 10月28日付 陸奥新報, 11月5日付 徳島新聞, 11月12日付 中国新聞 (広島), 11月18日付 福島民報, 11月12日付 福井新聞。
- [6] 「依田高典著: 『ココロ』の経済学—行動経済学から読み解く人間のふしぎ」2017年3月11日付 陸奥新報, 3月19日付 福井新聞, 3月26日付 徳島新聞。
- [7] 「ポール・オームロッド著: 経済は『予想外のつながり』で動く」2015年10月17日付 陸奥新報。
- [8] 「ウリ・ニーズィー, ジョン・A・リスト『その問題, 経済学で解決できます』」京都新聞 2014年10月12日付, 徳島新聞 10月12日付。
- [9] 「幸福のパラドックス」『医学の歩み』Vol. 251 No. 2, 2014年10/11。

- [10] 「シラー教授を語る」『経済セミナー』No. 676, pp. 68-69, 2014年2/3月号。
- [11] 「2013年ノーベル経済学賞 資産価値の決定理論に大きく貢献」『エコノミスト』2013年12月5日号
- [12] 「キャロル・グラハム著, 多田洋介訳『幸福の経済学—人々を豊かにするものは何か—』『季刊 個人金融』vol. 8 no. 2, 2013年8月, pp.138-140。
- [13] 「今を読み解く:『幸福の経済学』とは何か」日本経済新聞 2013年3月10日。
- [14] 「主観的幸福感に信頼できる尺度か」『DIO (連合総研レポート)』, pp. 4-7。2012年9月。
- [15] 「経済学, 幸福の経済学と主観的幸福度—大石・小宮論文へのコメント—」『心理学評論』vol. 55 no. 1, pp. 22-25, 2012年6月。
- [16] 「デレック・ボック著, 土屋直樹・茶野 努・宮川修子訳『幸福の研究』」日本経済新聞 2011年11月20日。
- [17] 「視点:消費者金融における上限金利規制の是非」『ファイナンシャル・コンプライアンス』2011年1月号, p. 3。
- [18] 「見直しに期待を寄せたヒアリングだったが」『クレジットAGE』, pp. 6-7, 2010年7月。
- [19] 「総量規制導入は延期を, 上限金利引き下げの凍結は不要」『金融財政事情』2010年1月25日号, 10-15頁。
- [20] 「リチャード・セイラー, キャス・サンスティーン著, 遠藤真美訳『実践 行動経済学』」日本経済新聞 2009年9月6日。
- [21] 「持続可能性と幸福感」『CEL』90号, 2009年9月。
- [22] 「小泉改革, 方向は正しい」神戸新聞, 2009年8月21日朝刊。
- [23] 「幸福の経済学は世界を変えるか?」『個人金融』第4巻第2号, pp.

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- 49-57, 2009年7月。
- [24] 「やさしい経済学」日本経済新聞 2009年4月20日～5月1日。
- [25] 「第2, 第3の小泉氏必要」朝日新聞 2009年4月20日。
- [26] 「幸福の経済学と幸福のパラドックス」『ハーバード・ビジネス・レビュー』
2009年1月, p.1。
- [27] 「貸し渋りの現状と解決策」『月刊金融ジャーナル』2009年1月号,
pp. 56-59。
- [28] 「マッテオ・モッテルリーニ著, 泉典子訳『経済は感情で動くー初めて
の行動経済学』」『日本経済研究センター会報』, 2008年8月。
- [29] 「優良顧客の金利割高に」日本経済新聞:経済教室, 2008年7月18日。
- [30] 「子安増生・西村和雄著『経済心理学のすすめ』」『証券アナリストジャー
ナル』 vol. 46 no. 4, pp. 10-102, 2008年4月。
- [31] 「行動経済学会の船出」『月刊 金融ジャーナル』2008年3月号。
- [32] 「消費者金融業の産業組織」『消費者金融白書』平成19年度版, 2007年
10月。
- [33] 「消費者金融問題の解決策」日本経済新聞:経済教室, 2007年6月14
日。
- [34] 「銀行の貸し渋りはあったのか」『週刊エコノミスト』2007年2月。大
竹文雄編『こんなに使える経済学』ちくま新書, 2008年1月に再録。
- [35] 「経済学は実験できるか」『信金中金月報』巻頭言2007年1月号, 2-3
頁。
- [36] 「経済実験とアンケート」『経済セミナー』No. 623, pp. 28-33, 2007年
1月号。(佐々木俊一郎氏と共著)。
- [37] 「VIVA 民営化」郵政総研レビュー2007.01号。
- [38] 「株でもうかる裁定機会はあるか」『週刊エコノミスト』2006年11月28
日号, pp. 112-113。大竹文雄編『こんなに使える経済学』ちくま新

書，2008年1月に再録。

- [39] 「友野典男著『行動経済学』』『論座』2006年10月号，p. 317。
- [40] 「幸福の経済学」『信金中金月報』巻頭言2006年10月号，pp. 2-3。
- [41] 「量的緩和政策」産経新聞 2006年4月。
- [42] 「合理性と利己性を問う」日本経済新聞：やさしい経済学，2006年4月。
- [43] 「幸福の経済学」『handai newsletter』2005年8月号。
- [44] 「行動経済学の展望：経済学は感情を扱いうるか」『ハーバード・ビジネス・レビュー』2005年6月10日号。
- [45] 「行動経済学へのご招待」『学会会報』2005-V no. 854, pp. 34-49。
- [46] 「行動経済学が問う幸福度」『エコノミスト』2005年4月19日号。
- [47] 「R. E. パーカー著，宮川重義訳『大恐慌を見た経済学者11人はどう生きたか』」日本経済新聞，2005年3月20日。
- [48] 「幸福度研究に可能性」日本経済新聞 2005年3月7日。
- [49] 「福田慎一編著『日本の長期金融』』『日本経済研究センター会報』No. 910, p. 43, 2003年8月。
- [50] 「研究回顧－株価の国際連関を中心に－」『金融』，2001年11月号。
- [51] 「研究回顧－「株価の国際連関」を中心に」『金融』656号，2001年10月。
- [52] 「地方の金融市場にビッグバンを」『経済セミナー』pp. 30-34, 2000年7月号。(加納正二氏と共著)
- [53] 「金融」『阪大経済学・アラカルト』pp. 81-88, 大阪大学出版会，2000年7月。(前多康男氏と共著)
- [54] 「アメリカの株価はバブルか？」日本経済新聞，1997年10月。
- [55] 「とし三題」『KERC 会報』303号，1997年9月。
- [56] 「経済白書を読んで」朝日新聞，1997年7月18日。
- [57] 「銀行『護送船団方式』が促進した郵貯拡大」東京新聞，1997年6月

筒井義郎教授 略歴・著作目録

22日。

- [58] 「貝塚啓明・植田和男編『変革期の金融システム』『経済研究』第48巻 第2号, pp.180-183, 1997年4月。
- [59] 「低金利政策の功罪」日本経済新聞：やさしい経済学, 1996年6月。
- [60] 「バートン・マルキール著, 井手正介訳『ウォール街のランダム・ウォーク』」Japanese Journal of Financial Economics, vol. 1 no. 1, pp. 113-119, December 1994.
- [61] 「粕谷宗久著『日本の金融機関経営』『金融経済研究』第7号, pp. 146-148, 1994年7月。
- [62] 「経済学は科学か」郵政研究所『調査月報』第68号, 巻頭言, pp. 2-6, 1994年6月。
- [63] 「金融イノベーション」館龍一郎監修『金融辞典』, pp. 586-589, 東洋経済新報社, 1994年2月。
- [64] 「金融規制と金融制度」館龍一郎監修『金融辞典』, pp. 293-297, 東洋経済新報社, 1994年2月。
- [65] 「寺西重郎著『工業化と金融システム』『経済研究』第44巻 第4号, pp. 376-379, 1993年10月。
- [66] 「堀江康熙・浪花貞夫著『日本の金融変動と金融政策』『季刊理論経済学』第44巻 第2号, pp. 186-189, 1993年6月。
- [67] 「黒田晁生著『日本の金融市場—金融政策の効果波及メカニズム—』『季刊理論経済学』第42巻 第1号, pp. 87-89, 1991年3月。
- [68] 大学と研究所 郵政研究所『調査月報』第27号, 巻頭言, 1991年1月。
- [69] 「レイドラー著, 今井譲・石垣健一他訳『貨幣の経済学』『経済学論究』(関西学院大学)第44巻 第1号, pp. 71-80, 1990年4月。
- [70] 「凡人の生業評価に喜び」『日本経済研究センター報』1988年。
- [71] 「古川顕著『現代日本の金融分析—金融政策の理論と実証—』『経済

研究』第38巻 第1号, pp. 90-93, 1987年1月。

- [72] 「大久保隆著『マネーサプライと金融政策－理論と実証－』『季刊理論経済学』第35巻 第2号, pp. 190-192, 1984年8月。

VI Discussion Paper 等の未公開論文

- [1] “Gap of height and education within couple and its effect on conflict and evaluation about partners: psychological cost of division of labor within household,” Discussion Papers in Economics and Business No. 17-35, Osaka University, December 2017. (Eiji Yamamura, Yoshiro Tsutsui)
- [2] “Altruistic and selfish motivations of charitable giving: Case of the hometown tax donation system in Japan,” ISER Discussion Paper No. 1003, May 2017. (Eiji Yamamura, Yoshiro Tsutsui, Fumio Ohtake)
- [3] “Psychological Motivations for Collectivist Behavior: Comparison between Japan and the U.S.” mimeo. (Shinichi Hirota, Kiyotaka Nakashima, Yoshiro Tsutsui)
- [4] “Activity, Time, and Subjective Happiness: An Analysis Based on an Hourly Web Survey,” ISER Discussion Paper No. 926, February 2015. (Hideaki Sakawa, Fumio Ohtake and Yoshiro Tsutsui)
- [5] “Are facets of homo economicus associated with higher earnings and happiness?” Discussion Papers in Economics and Business No. 14-33, Osaka University, October 2014. (Shoko Yamane, Hiroyasu Yoneda and Yoshiro Tsutsui)
- [6] “Effect of Major Disasters on Geographical Mobility Intentions: The Case of the Fukushima Nuclear Accident,” ISER Discussion Paper No. 903, June 2014. (Eiji Yamamura, Yoshiro Tsutsui, Chisako Yamane and Shoko Yamane)

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- [7] “Unhappiness after Hurricane Katrina,” NBER working Paper No. 12062, March 2006. (Miles Kimball, Helen Levy, Fumio Ohtake and Yoshiro Tsutsui)
- [8] 「効率性仮説と市場構造＝行動＝成果仮説：再訪」, RIETI Discussion Paper Series 06-J-001, 2006年1月。(筒井義郎・佐竹光彦・内田浩史)
- [9] 「都市銀行における効率性仮説」, RIETI Discussion Paper Series 05-J-027, 2005年9月。(筒井義郎・佐竹光彦・内田浩史)
- [10] 「時間割引率：経済実験とアンケートによる分析」, ISER Discussion Paper No. 638, 2005年6月。(池田新介・大竹文雄・筒井義郎)
- [11] 「信用金庫と効率性仮説」, ISER Discussion Paper No. 626, 2005年2月。
- [12] 「協同組織金融機関の経営効率性」, Discussion Paper in Economics and Business No. 03-10, 大阪大学, 2003年5月。
- [13] 「財政投融资の景気調整機能」, mimeo., 1993年4月。
- [14] 「公的金融と範囲の経済」, Discussion Paper in Economics No. 126, 名古屋市立大学, 1991年2月。
- [15] 「東京・ニューヨーク株式市場の相互関連：アンケート調査の結果」, Discussion Paper in Economics, 名古屋市立大学, 1990年5月。(紺谷典子・筒井義郎)
- [16] 「郵便貯金と民営化：論点の整理」, Discussion Paper in Economics, 名古屋市立大学, 1990年5月
- [17] 「日米株式投資家の市場予想と投資行動：アンケート調査の結果」, Discussion Paper in Economics, 名古屋市立大学, 1990年3月。(紺谷典子・筒井義郎)
- [18] 「ツー・ステップ・ローンと開発途上国の金融市場」, Discussion Paper in Economics No. 102, 名古屋市立大学, 1990年3月。

- [19] “Real and Monetary Disturbances in the G-7 Countries: Implications for the Choice of an International Monetary Regime,” mimeo., May 1989. (Koichi Hamada, Jai-Won. Ryou and Yoshiro Tsutsui)
- [20] “Real and Monetary Shocks in the G-7 Countries,” Discussion Paper in Economics No. 90, 名古屋市立大学, May 1988. (Jai-Won Ryou and Yoshiro Tsutsui)

Ⅶ 学会報告・セミナー・講演

- [1] Next Wisdom Meeting 2019 ～三方良し～ ケイザイ祭, 2019年10月
「三方良しと経済学」というタイトルで講演。
- [2] MEW (Monetary Economic Workshop), 甲南大学 2019年 6 月29日
未公開論文 “Do people dislike inequality? A comparison between U.S. and Japan” を発表。
- [3] 広島経済大学セミナー, 2019年 5 月30日
未公開論文 “「出生時体重は人生に影響するか? : 日本, アメリカ, インド, 3 か国の比較」を発表 (発表者は山根智沙子氏)。
- [4] MEW (Monetary Economic Workshop) 関西学院大学 梅田キャンパス2019年 4 月20日
未公開論文 「出生時体重は人生に影響するか? : 日本, アメリカ, インド, 3 か国の比較」を発表 (発表者は山根智沙子氏)。
- [5] 甲南大学経済学研究会, 2019年 4 月 3 日
未公開論文 “Do people dislike inequality? A comparison between U.S. and Japan” を発表。
- [6] MEW (Monetary Economic Workshop), 関西学院大学 梅田キャンパス2018年10月20日
未公開論文 「日本の株式機関投資家の予想形成」を発表。(発表者は

高阪勇毅氏)

- [7] 金融経済教育教員交流研究会, 日本証券業協会大阪地区協会会議室
2016年 5 月28日
「行動経済学と金融」というタイトルで講演。
- [8] MEW (Monetary Economic Workshop) 甲南大学 2015年 3 月28日
未公刊論文 “Activity, Time, and Subjective Happiness: An Analysis Based on an Hourly Web Survey,” を発表。
- [9] MEW (Monetary Economic Workshop) 甲南大学 2015年 1 月24日
公刊論文 “Happiness Before and After an Election: An Analysis Based on a Daily Survey Around Japan’s 2009 Election” になったものを発表。
- [10] MEW (Monetary Economic Workshop) 甲南大学 2015年 1 月24日
公刊論文 “Why Are Cabinet Supporters Happy?” になったものを発表。
- [11] 行動経済学会 (慶應義塾大学), 2014年12月 6 日 (土)
公刊論文 “Happiness Before and After and Election: An Analysis Based on a Daily Survey around Japan’s 2009 Election” になったものを発表。
討論者は白石小百合氏 (横浜市立大学)
- [12] 行動経済学会 (慶應義塾大学), 2014年12月 6 日
未公刊論文 “Activity, Time, and Subjective Happiness: An analysis Based on an Hourly Web survey” を発表。発表者は坂和秀晃氏, 討論者は亀坂安紀子氏 (青山学院大学)
- [13] 日本金融学会2014年度春季大会 (慶應義塾大学) 2014年 5 月24日
公刊論文 “Intraday Return and Volatility Spillover Mechanism from Chinese to Japanese Stock Market” になったものを発表。発表者は西村友作氏, 討論者は岩壺健太郎氏 (神戸大学)
- [14] シンポジウム「金融システムの安定性と金融業の競争」(京都大学),
2013年10月30日 (パネリスト)

- [15] 日本公衆衛生学会（三重県総合文化センター），2013年10月25日
「幸福のパラドックス」というタイトルで講演
- [16] Barclays 講演会（The Peninsula Tokyo），2013年10月22日
「行動経済学入門」というタイトルで講演
- [17] 日本ファイナンス学会第21回大会（武蔵大学），2013年6月2日
公開論文 “Disposition Effect and Loss Aversion: An Analysis Based on a Simulated Experimental Stock Market” になったものを発表。発表者は高阪勇毅氏，討論者は城下賢吾氏（山口大学）
- [18] シンポジウム「世界金融危機の理論・実証・政策」（法政大学），2013年2月2日
公刊論文 “Disposition Effect and Loss Aversion: An Analysis Based on a Simulated Experimental Stock Market” になったものを発表
- [19] 行動経済学会（青山学院大学），2012年12月8日
未公開論文 “Are Facets of Homo Economicus Associated with Higher Earnings and Happiness?” を発表。発表者は山根承子氏，討論者は佐野晋平氏（神戸大学）
- [20] 行動経済学会（青山学院大学），2012年12月8日
公刊論文 “Disposition Effect and Loss Aversion: An Analysis Based on a Simulated Experimental Stock Market” になったものを発表。発表者は高阪勇毅氏
- [21] 制度と組織の経済学（OEIO）（大阪大学），2012年11月2日
未公開論文 “Are Facets of Homo Economicus Associated with Higher Earnings and Happiness?” を発表。発表者は山根承子氏
- [22] Monetary Economics Workshop（大阪大学），2012年10月6日
公刊論文 “Disposition Effect and Loss Aversion: An Analysis Based on a Simulated Experimental Stock Market” になったものを発表。

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- [23] 日本金融学会春季大会（大正大学），2012年5月20日
公刊論文“Return and Volatility Spillovers between Japanese and Chinese Stock Market: An Analysis of Overlapping Trading Hours with High-frequency Data”になったものを発表。発表者は西村友作氏，討論者は宇野 淳氏（早稲田大学）
- [24] 行動経済学会第5回大会（関西学院大学），2011年12月11日
公刊論文“Smokers, Smoking Deprivation, and Time Discounting”になったものを発表。発表者は米田紘康氏，討論者は和田良子氏（敬愛大学）
- [25] 自由民主党政務調査会 2011年12月1日
「消費者金融規制の問題点」というタイトルで報告
- [26] 司法研修所，2011年7月6日
「消費者の意思決定についてー行動経済学の立場からー」というタイトルで講義
- [27] 武蔵大学セミナー 2011年7月1日
“Asking the change in happiness in a daily web-survey”というタイトルで報告
- [28] 『現代ビジネス』シンポジウム「幸福の経済学—3・11以降の『豊かさ』と『幸せ』を行動経済学から考える」（講談社）2011年6月4日。（基調講演）
- [29] 日本金融学会2011年春季大会（明治大学）2011年5月28日
公刊論文「金融危機と日中ボラティリティ：日米中株式市場の比較分析」になったものを発表。発表者は西村友作氏，討論者は岩壺健太郎氏（神戸大学）。
- [30] 日本経済学会春季大会（熊本学園大学）2011年5月22日
“Asking the change in happiness in a daily web-survey”（招待講演）
- [31] KAFEE Lunch seminar, at FEB, University of Amsterdam 2010年10月25

日

“Activity, Time, and Subjective Happiness: An analysis Based on an Hourly Web survey” というタイトルで報告。

- [32] The 4th Workshop on Innovations in Internet interviewing (MESS workshop) 2010年 8 月27日

“Activity, Time, and Subjective Happiness: An analysis Based on an Hourly Web survey” というタイトルで報告。討論者は Katherine Grace Carman (Department of Economics and Netspar, Tilburg University)

- [33] Workshop Heidelberg University 2010年 7 月30日

“Activity, Time, and Subjective Happiness: An analysis Based on an Hourly Web survey” というタイトルで報告。

- [34] 平成21年度確定拠出年金投資教育セミナー 2010年 1 月28日

「行動ファイナンスと商品選択」というタイトルで講演

- [35] 行動経済学会2009年度大会 (名古屋大学) 2009年12月12日

公刊論文 “A Policy to Promote Influenza Vaccination: A Behavioral Economic Approach,”. (with Uri Benzion, Shosh Shahrabani and Gregory Yom Din) になったものを報告。討論者は依田高典氏 (京都大学)。

- [36] 日本金融学会2009年秋季大会 (香川大学) 2009年11月 8 日

公刊論文 “Are Chinese Stock Investors Watching Tokyo?: An Analysis with Intraday High-Frequency Data” になったものを発表。討論者は川西 諭氏 (上智大学)。

- [37] 日本金融学会2009年秋季大会 (香川大学) 2009年11月 7 日

会長講演 「バブルと金融危機：行動経済学のアプローチ」。

- [38] 日本経済学会2009年秋季大会 (専修大学) 2009年10月10日

未公刊論文 “Genetic Inheritance of Time Discounting Behavior” (with

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- Kenjiro Hirata, Kazuo Hayakawa, Shinsuke Ikeda and Fumio Ohtake) を発表。発表者は平田憲司郎氏（立命館大学），討論者は後藤励氏（甲南大学）。
- [39] 日本経済学会2009年秋季大会（専修大学）2009年10月10日
公刊論文“Understanding Regional Growth Dynamics in Japan: Panel Cointegration Approach Utilizing the PANIC Method”（with Masahiko Shibamoto and Chisako Yamane）になったものを発表。発表者は柴本昌彦氏（神戸大学），討論者は大津敬介氏（上智大学）。
- [40] 大阪ガス規制と競争研究会 2009年9月17日
「消費者金融の上限金利規制と産業組織」というタイトルで報告。
- [41] 第52回日弁連人権擁護大会プレシンポジウム（東京弁護士会）2009年9月9日
「法律学，経済学，行動経済学」というタイトルで報告。
- [42] 経済同友会「内需拡大・経済成長戦略委員会」2009年8月6日
「幸福のパラドックス」というタイトルで報告。
- [43] 富山大学経済学セミナー（富山大学）2009年7月22日
公刊論文“Understanding Regional Growth dynamics in Japan: Panel Cointegration Approach Utilizing the PANIC Method”になったものを発表。
- [44] RISS 経済政策特別講義（関西大学）2009年6月20日
「EcoDAAS Project の提案」というタイトルで講義。
- [45] 日本証券アナリスト協会（大阪銀行協会）2009年6月10日
「金融危機と行動経済学」というタイトルで報告。
- [46] MPT フォーラム（東洋経済新報社）2009年6月4日
公刊論文“Are Chinese stock investors watching Tokyo?: An analysis with intraday high-frequency data”になったものを発表

- [47] 日本証券アナリスト協会（東京証券取引所）2009年5月29日
「金融危機と行動経済学」というタイトルで講演。
- [48] 司法研修所 2009年5月20日
「消費者の意思決定についてー行動経済学の立場からー」というタイトルで講義。
- [49] 財政総合政策研究所セミナー（財務省）2009年4月17日
「新古典派経済学，小泉政権，行動経済学」というタイトルで報告。
- [50] 第2回 RISS 経済政策特別講義（関西大学）2009年2月23日
「地域金融の課題」というタイトルで講義。
- [51] 行動経済学会（一ツ橋大学）2008年12月21日
公刊論文「幸福度で測った地域間格差」（山根智沙子・山根承子両氏と共著）になったものを発表。発表者は山根智沙子氏，討論者は山口勝業氏。
- [52] 行動経済学会（一ツ橋大学）2008年12月21日
会長講演「幸福の経済学」。
- [53] 生活経済学会関西部会（関西大学）2008年12月6日。
公刊論文「幸福度で測った地域間格差」（山根智沙子氏，山根承子氏と共著）になったものを発表。
- [54] 日本金融学会秋季大会（広島大学）2008年10月12日
会長講演「地域金融の課題」。
- [55] 日本経済学会秋季大会（近畿大学）2008年9月14日
公刊論文「幸福度で測った地域間格差」（山根智沙子氏，山根承子氏と共著）になったものを発表。発表者は山根智沙子氏（新潟産業大学），討論者は白石小百合氏（横浜市立大学）。
- [56] 参議院・特別調査室 2008年9月5日
「幸福度研究から何を学ぶか」というタイトルで報告。

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- [57] 第2回地域金融コンファランス（名古屋大学）2008年8月29日
「地域金融研究の課題」というタイトルで報告。
- [58] 第5回行動経済学研究センターシンポジウム（大阪大学）2008年8月27日
「自信過剰が招く多重債務」というタイトルで報告。
- [59] 金融審議会 WORKING GROUP 2008年5月9日
「協同組織金融機関のあり方」というタイトルで報告。
- [60] 第1回地域金融コンファランス（大阪大学）2008年3月1日
公刊論文「銀行部門と地域の経済発展：金融深化と収束仮説」（山根智沙子氏と共著）になったものを発表。発表者は山根智沙子氏（広島大学），討論者は打田委千弘氏（愛知大学）。
- [61] 第1回地域金融コンファランス（大阪大学）2008年3月1日
公刊論文「幸福度で測った地域間格差」（山根智沙子氏，山根承子氏と共著）になったものを発表。発表者は山根承子氏（大阪大学），討論者は野間敏克氏（同志社大学）。
- [62] 日本経済学会春季大会（日本大学） 2008年6月1日
公刊論文「消費者金融業の競争度」（窪田康平氏と共著）になったものを発表。発表者は窪田康平氏（大阪大学），討論者は播磨谷浩三氏（札幌学院大学）。
- [63] 設研アカデミックセミナー（政策投資銀行設備投資研究所）2007年10月5日
公刊論文「銀行部門と地域の経済発展：金融深化と収束仮説」（山根智沙子氏と共著）になったものを発表。
- [64] 日本経済学会秋季大会（日本大学）2007年9月
公刊論文「上限金利規制の是非：行動経済学的アプローチ」（晝間文彦氏，大竹文雄氏，池田新介氏と共著）になったものを発表。討論者は

池尾和人氏。

- [65] 日本金融学会秋季大会（同志社大学）2007年9月
公刊論文「銀行部門と地域の経済発展：金融深化と収束仮説」（山根智沙子氏と共著）になったものを発表。発表者は山根智沙子氏（広島大学），討論者は岡部直明氏（明治学院大学）。
- [66] 日本金融学会秋季大会（同志社大学）2007年9月
公刊論文「上限金利規制の是非：行動経済学的アプローチ」（晝間文彦氏，大竹文雄氏，池田新介氏と共著）になったものを発表。討論者は吉野直行氏。
- [67] Osaka University Forum Groningen University (Netherland) 2007年6月29日
公刊論文 “Time Discounting: Declining Impatience and Interval Effect” (with Yusuke Kinari and Fumio Ohtake) になったものを発表。
- [68] 日本経済学会春季大会（大阪学院大学）2007年6月
公刊論文 “Koizumi Carried the Day: Did the Japanese Election Results Make People Happy and Unhappy?” (with Miles Kinball and Fumio Ohtake) となったものを発表。討論者は川口大司氏。
- [69] 日本経済学会春季大会（大阪学院大学）2007年6月
公開論文 “Experiments on Risk Attitude: the Case of Chinese Students” (with Shunichiro Sasaki, Shiyu Xie, Fumio Ohtake and Jio Qin) になったものを発表。討論者は西村直子氏（信州大学）。
- [70] 生活経済学会（沖縄，青年会館）2007年4月
公刊論文 “Koizumi Carried the Day: Did the Japanese Election Results Make People Happy and Unhappy?” (with Miles Kinball and Fumio Ohtake) になったものを発表。討論者は晝間文彦氏。
- [71] 日本経済学会秋季大会（大阪市立大学）2006年10月

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- 公刊論文 “Time Discounting: Declining Impatience and Interval Effect”
(with Yusuke Kinari and Fumio Ohtake) になったものを発表。報告者
は木成勇介氏, 討論者は依田氏。
- [72] 第3回行動経済学研究センターシンポジウム「経済学は実験できるか」
(大阪大学) 2006年8月23日
「経済実験とアンケート」というタイトルで報告。
- [73] 日本金融学会春季大会 (早稲田大学) 2006年4月
公刊論文 “Credit Crunch and its Spatial Differences in Japan’s Lost Dec-
ade: What Can We Learn from It?” になったものを発表。発表者は石
川大輔氏, 討論者は松浦克己氏。
- [74] 第2回行動経済学研究センターシンポジウム「脳科学と経済学の対話」
(大阪大学) 2005年8月24日
「なぜあなたは幸せなのか」というタイトルで報告。
- [75] 日本ファイナンス学会全国大会 (東京大学) 2005年6月
公刊論文 “Special Quotes Invoke Autocorrelation in Japanese Stock
Prices” になったものを発表。発表者は平山健二郎氏 (関西学院大学),
討論者は宇野淳氏 (早稲田大学)。
- [76] 日本金融学会秋季大会 (愛知大学) 2004年9月11日
共通論題「地域金融の多様性と普遍性—新しい地域金融のモデルを求
めて—」, パネリスト「地域別市場分断と地域金融」で報告。
- [77] 日本経済学会春季大会(明治学院大学) 2004年6月
未公刊論文 “Market Efficiency and International Linkage of Stock
Prices: An Analysis with High Frequency Data” を発表。討論者は加
藤英明氏 (神戸大学)
- [78] 日本ファイナンス学会全国大会 (中央大学) 2004年5月
公刊論文 “Degree of Competition in Japanese Securities Industry” (with

- Akiko Kamesaka) になったものを発表。発表者は亀坂安紀子氏, 討論者は松村敏弘氏 (東京大学)。
- [79] 日本金融学会春季大会 (神奈川大学) 2004年 5 月
公刊論文 “Degree of Competition in Japanese Securities Industry” (with Akiko Kamesaka) になったものを発表。発表者は亀坂安紀子氏, 討論者は辻幸民氏 (慶應大学)。
- [80] 日本金融学会秋季大会 (滋賀大学) 2003年10月
公刊論文 “Causes of Nonperforming Loans in the ‘Heisei Depression’” (with Akira Kunikata) になったものを発表。発表者は國方明氏, 討論者は清水克俊氏 (青山学院大学)。
- [81] 日本経済学会春季大会 (大分大学) 2003年 6 月
公刊論文 「なぜ京都は信金王国なのか? : efficiency structure 仮説の視点による分析」 (佐竹光彦氏と共著) になったものを発表。発表者は佐竹光彦氏 (龍谷大学), 討論者は岩坪加紋氏 (岡山商科大学)。
- [82] 日本ファイナンス学会 (武蔵大学) 2003年 6 月
未公刊論文 “Market Efficiency and International Linkage of Stock Prices: An Analysis with High Frequency Data” を発表。発表者は平山健二郎氏, 討論者は池田昌幸氏 (一橋大学)。
- [83] 日本金融学会関西支部会 (大阪銀行協会) 2002年11月
公刊論文 “Has Competition in the Japanese Banking Sector Improved?” (with Hirofumi Uchida) になったものを発表。
- [84] 日本経済学会秋季大会 (広島大学) 2002年10月
公刊論文 “Has Competition in the Japanese Banking Sector Improved?” (with Hirofumi Uchida) になったものを発表。発表者は内田浩史氏, 討論者は粕谷宗久氏 (日本銀行)。
- [85] 一ツ橋大学における研究会 2001年10月

- 公刊論文 “Geographical Segmentation in Japanese Bank Loan Markets”
(with Masaji Kano) になったものを発表。
- [86] 新潟大学における研究会 2001年7月
公刊論文 “Geographical Segmentation in Japanese Bank Loan Markets”
(with Masaji Kano) になったものを発表。
- [87] 愛知大学における研究会 2001年7月
公刊論文 “Geographical Segmentation in Japanese Bank Loan Markets”
(with Masaji Kano) になったものを発表。
- [88] 日本ファイナンス学会 (早稲田大学) 2001年6月2日
公刊論文 “Are the International Portfolio Adjustments a Cause of the
Comovements of Stock Prices?” になったものを発表。討論者は宮越
龍義氏。
- [89] 日本金融学会秋季大会 (九州大学) 2000年11月4日
公刊論文 “Geographical Segmentation in Japanese Bank Loan Markets”
(with Masaji Kano) になったものを発表。発表者は加納正二氏, 討論
者は金子隆氏 (慶応大学)。
- [90] 日本金融学会春季大会 (横浜市立大学) 2000年5月
未公刊論文「生命保険業の競争状況」を発表。発表者は相馬利行氏,
討論者は井口富雄氏 (龍谷大学)。
- [91] 日本ファイナンス学会 (上智大学) 2000年6月4日
公刊論文 “Exchange rate and the stock prices in Japan” (with Uri
Benzion and Tetsushi Homma) になったものを発表。発表者は本間哲
志氏, 討論者は平木多賀人氏 (国際大学)。
- [92] 日本金融学会秋季大会 (東北大学) 1999年10月
公刊論文 “Appropriate Lag Specification for Daily Responses of Interna-
tional Stock Markets” (with Kenjiro Hirayama) になったものを発表。

- 討論者は大野早苗氏（高千穂商科大学）。
- [93] 日本経済学会春季大会（香川大学）1999年5月
公刊論文“Estimation of the Common and Country-Specific Shock to Stock Prices”（with Kenjiro Hirayama）になったものを発表。発表者は平山健二郎氏，討論者は平木多賀人氏（国際大学）
- [94] ファイナンス研究会（日本生命本社）1998年12月
公刊論文“Estimation of the Common and Country-Specific Shock to Stock Prices”（with Kenjiro Hirayama）になったものを発表。
- [95] ファイナンス・フォーラム集中研究会 1998年12月
公刊論文「銀行の経営合理化」になったものを発表。討論者は新美一正氏。
- [96] ファイナンス・フォーラム集中研究会 1997年12月
公刊論文“Intensifying International Linkage of Stock Prices”になったものを発表。討論者は三井 清氏。
- [97] 日本金融学会秋季大会（北海道大学）1997年12月
パネルディスカッション『金融ビッグバン』報告・討論。
- [98] 日本金融学会春季大会（千葉商科大学）1997年6月
公刊論文“Do Banks Diversify Portfolio Risk?: A Test of the Risk Cost Hypothesis”になったものを発表。討論者は幸村千佳良氏（成蹊大学）。
- [99] 日本ファイナンス学会（法政大学）1997年5月
公刊論文“Threshold Effect in International Linkage of Stock Prices”になったものを発表。発表者は平山健二郎氏，討論者は宇野淳氏。
- [100] 「リスクと情報の経済学」研究会議 1997年2月
公刊論文“Do Banks Diversify Portfolio Risk?: A Test of the Risk Cost Hypothesis”になったものを発表。
- [101] ファイナンス・フォーラム集中研究会 1997年2月

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- 公刊論文 “Threshold Effect in International Linkage of Stock Prices”
になったものを発表。発表者は平山健二郎氏，討論者は宇野淳氏。
- [102] 日本金融学会秋季大会（熊本学園大学）1996年10月
公刊論文 “The Interdependence and Its Cause of the Japanese and U.S. Stock Prices: An Analysis Based on the Return of Trading and Non-trading Periods” になったものを発表。討論者は村瀬安紀子氏（大東文化大学）。
- [103] ファイナンス研究会（住友生命本社）1996年8月
公刊論文 “The Interdependence and Its Cause of the Japanese and U.S. Stock Prices: An Analysis Based on the Return of Trading and Non-trading Periods,” になったものを発表。
- [104] 保険経営史国際コンファランス 1996年2月
公刊論文 “Japanese Life Insurance Industry in the Interwar Period” になったものを発表。討論者は出口治明氏（日本生命）。
- [105] ファイナンス・フォーラム集中研究会 1995年12月
公刊論文「日米株価の相互連関」と「消費の外部性と資産価格」になったものを発表。討論者は斯波恒正氏（筑波大学社会学系），齋藤 誠氏（京都大学経済学部）。
- [106] ファイナンス・フォーラム集中研究会 1994年11月
未公刊論文 “A Test of the Causality between the New York and Tokyo Stock Exchanges” と “Asset Pricing with Consumption Externalities: An Empirical Analysis” (with Shinsuke Ikeda) を発表。
- [107] 日本金融学会関西西部会（大阪大学）1994年7月
公刊論文「貸出サイズと銀行の規模の経済性」（橘木俊詔・松浦克己編『日本の金融：市場と組織』，第7章（日本評論社）になったものを発表。

- [108] ファイナンス・フォーラム集中研究会 1993年11月
公刊論文「貸出サイズと銀行の規模の経済性」になったものを発表。
討論者は三井 清氏(明治学院学)。
- [109] 日本金融学会秋季大会(長崎大学) 1993年11月
公刊論文「低金利政策と銀行業の効率性」になったものを発表。討論
者は寺西重郎氏(一橋大学)。
- [110] 理論計量経済学会西部部会(大阪市立大学) 1993年6月
公刊論文“An Interpretation of the Competition through Premium-
Dividend Price Policy in the Pre-War Japanese Life Insurance Industry,”
(with Masahiko Sekiguchi and Tsutomu Chano) になったものを発表。
討論者は家森信善氏(姫路独協大学)。
- [111] 理論計量経済学会全国大会(九州大学) 1992年
公刊論文“Managerial Objectives in Japanese Banking”(with Hiroshi
Izawa) になったものを発表。発表者は井澤裕司氏。
- [112] 日本金融学会春季大会(一橋大学) 1992年
公刊論文「日本の銀行業におけるデッドウェイトロスの計測」になっ
たものを発表。討論者は大村敬一氏。
- [113] 日本金融学会春季大会(日本大学) 1991年
公刊論文「長期資金市場と短期貸出市場:寺西モデルの再検討」になっ
たものを発表。
- [114] TCER コンファランス 1991年
公刊論文「金融仲介業務における範囲の経済性:費用と収入の両面か
ら」になったものを発表。
- [115] 日本金融学会関西部会(同志社大学) 1991年
公刊論文「金融仲介業務における範囲の経済性:費用と収入の両面か
ら」になったものを発表。発表者は広田真一氏。

筒井義郎教授 略歴・著作目録

- [116] 計量経済学研究会（琵琶湖コンファランス）1990年
公刊論文“Managerial Objectives in Japanese Banking”（with Hiroshi Izawa）になったものを発表。
- [117] 日本金融学会関西部会（近畿大学）1990年
公刊論文「生命保険業の市場構造と成果」になったものを発表。
- [118] Far Eastern Meeting of the Econometric Society（同志社大学）1989年
未公刊論文“Real and Monetary Disturbances in the G-7 Countries: Implications for the Choice of an International Monetary Regime”を発表。
発表者は浜田宏一氏。
- [119] 日本金融学会秋季大会（東北大学）1988年
公刊論文「わが国銀行業における経営者の目的：Expense-preference 仮説は妥当するか？」になったものを発表。発表者は井澤裕司氏。
- [120] 理論計量経済学会全国大会（京都大学）1988年
未公刊論文“Real and Monetary Shocks in the G-7 Countries”を発表。
討論者は吉野直行氏。
- [121] 理論計量経済学会西部部会（近畿大学）1987年
公刊論文“Bank Market Structure and Performance: Evidence from Japan”になったものを発表。討論者は土井教之氏（関西学院大学）。
- [122] 理論計量経済学会西部部会（香川大学）1986年
公刊論文“The Effect of Branch Regulation in Japanese Banking”になったものを発表。討論者は芹澤数雄氏（福岡大学）。
- [123] 日本金融学会春季大会（法政大学）1986年
公刊論文「わが国銀行業における規模の経済性とその源泉」になったものを発表。
- [124] 日本金融学会中部部会（椋山大学）1986年
利子率の期間構造について大垣昌夫氏との共同研究を発表（これは結

- 局論文としてまとめられていない。
- [125] 日本金融学会中部部会（中京大学）1984年
発表論文不明。
- [126] 日本金融学会秋季大会（北海道大学）1984年
公刊論文「新規貸出金利の推定」および「新規貸出金利：再計測」に
なったものを発表。
- [127] 計量経済学研究会（六甲コンファランス）1984年
公刊論文“Implicit Contracts in the Japanese Bank Loan Market” およ
び“Credit Rationing and Implicit Contract Theory: An Empirical Study”
になったものを発表。
- [128] 理論計量経済学会全国大会（上智大学）1983年
公刊論文“Implicit Contracts in the Japanese Bank Loan Market,” およ
び“Credit Rationing and Implicit Contract Theory: An Empirical Study,”
になったものを発表。
- [129] 理論計量経済学会全国大会（京都産業大学）1982年
公刊論文「日銀貸出の決定メカニズム」になったものを発表。討論者
は堀内昭義氏（一橋大学）。
- [130] 理論計量経済学会西部部会（南山大学）1981年
公刊論文「わが国銀行貸出市場の不均衡分析」になったものを発表。
討論者は釜江広志氏（山口大学）。